

令和元年度全国学力・学習状況調査結果についてのお知らせ

今年度の4月に全国の6年生を対象に実施されました、全国学力・学習状況調査の調査結果の概要をお知らせいたします。

1 教科別学習状況調査の結果

(1) 平均正答率と主な成果

	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率(%)	平均正答数	平均正答率(%)
横浜市立平沼小学校	9.4 / 14	67	10.3 / 14	73
神奈川県(公立)	8.5 / 14	61	9.4 / 14	67
全国(公立)	8.9 / 14	63.8	9.3 / 14	66.6

(2) 主な成果

○「国語」「算数」双方において、全国・神奈川県平均よりも上回る結果となっています。

○以下の設問題は、全国平均よりも本校の平均正答率が約10%高い正答率でした。

(国語)

- 2-1(2) 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。
- 3-3 話し手の意図を捉えながらか聞き、自分の考えをまとめる。

(算数)

- 1(3) 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる。
- 2(2) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる。
- 2(4) 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる。
- 3(4) 示された除法の式の意味を理解している。
- 4(2) 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる。

(3) 主な課題

○以下の設問題は、全国平均よりも本校の平均正答率が下回っていました。

(国語)

- 1-4(1)イ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。
→「限らず」の「限」の漢字を書かせる問題でした。

(算数)

- 3(1) 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用することができる。
→ひかれる数とひく数に同じ数をたして、計算のしやすい式にする問題でした。(350-97の式を計算しやすくするために、353-100のように、ひかれる数とひく数に同じ数字をたすという問題)
- 3(3) 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算できる。
→計算の工夫の仕方を自身で選択したうえで、正しい式と答えを書く問題でした。

2 今後の取組について

【国語】

- (1) 漢字の書き取りの設問では、「限」の字についての正答率が、全国平均を下回りました。また、「対象」という字についても、学校全体で正答率が低い傾向にありました。ドリルタイム等を活用して、日頃の漢字学習をより丁寧に取り組むとともに、日常から漢字を用いて文章を書くことを一層大切にしていけるように重点的に指導していきます。合わせて、ご家庭での学習支援もお願いします。
- (2) 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題では、未記入の児童が多く、全国平均は上回ったものの、学校全体として正答率が低い傾向にありました。作文等の「書く」指導において、文と文のつなげ方や適切な接続語の使い方などに力を入れ指導していきます。

【算数】

- (1) 計算の工夫をして、計算をしやすくするという「数学的な考え方」の面において、全国平均を下回りました。加法と乗法の混合式の計算では高い正答率であったところから、計算の技能は身に付いているものの、それらを活用する力に課題があります。授業の中で、児童が互いの考え方を共有し合いながら、自分の考え方を構築するなど、考え方の学習に力を入れていきます。
- (2) 「技能」や「知識・理解」を問う問題では、全国平均を上回る正答率の設問が多い傾向にありました。引き続き、基礎・基本の定着を大切に授業を展開していきます。

3 学習習慣・生活習慣の特徴的な結果と今後の改善策について ※（ ）内は全国平均。

【学習に関すること】

- 国語・算数ともに、「国語(算数)の勉強は好きですか」という問いについて、全国平均よりも高い関心が見られました。また「国語(算数)の勉強は大切だと思いますか」とについてはどちらも80%以上の児童が「そう思う」と回答していました。今後も引き続き、学習への前向きな姿勢を大切にしつつ、個々の課題に丁寧に対応して、主体的・対話的に学ぶことができる授業づくりを進めていきます。
- 「算数の問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」という問いでは、65.9%(47.7)の児童が、「そう思う」と答えました。方法を考えようとする意欲があるところからも、計算を工夫して計算しやすくするなどの「数学的な考え方」において、その意欲と結びつけて、学びを深めていけるようにしていきます。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」という問いには、45.9%(30.3)の児童が「そう思う」と答え、全国平均を大きく上回りました。平沼小が大切にしてきた、「主体的・対話的な授業」の成果が見られます。今後も継続して授業を進めていきます。

【生活に関すること】

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに対して、全ての児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えました。いじめは絶対にあってはならないことであるという徹底した指導を引き続き行っていくとともに、困ったことがあったら相談できる人間関係づくりを大切にしていきます。
- 「学校に行くのは楽しいですか」という問いでは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童が合わせて91.8%(85.8)に上りました。楽しい学校づくりに、今後も引き続き力を入れていきます。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という問いでは、87.1%(74.7)が「当てはまる」と答えた。授業や学校生活において、自分のよさを生かすことができるよう、学校生活の充実をより一層図っていきます。今後もご家庭のご支援・ご協力をお願いします。